

# 春日山 かすがやま 第15号 '21/12/10

<http://www.miharu.ed.jp> or [www.380.jp](http://www.380.jp) e-mail: [azuma@miharu.ed.jp](mailto:azuma@miharu.ed.jp)

## 殻破り？

ワクワクひろばを終えてからも、つい先日まで子どもたちが制作した様々なモノが保育室の環境として残されていました。(だんだんと姿を消してゆきましたが…)

年中黄バッチグループでは自分たちで準備してミニワクワクひろばが開かれ、ピンクバッチさんはお客さん役として参加し皆で楽しんでいました。

さて、ワクワクひろばを終えてから年少ピンクバッチのお友だちを中心に、ポジティブに言えば活動的に：ネガティブに言えば落ち着きない姿がみられます。この様子を園長としては後ろ向きな解釈はしておらず、子どもがこれまでに大人からどのようにかかわってこられたのか、どこに発達課題があるのかについて、より理解する一助と考え注視しています。

私たちにとって問題なのは教育課程の節目に、みんなのなかにまぎれて課題が見えてこない子どもたちをどの様に理解しうけとめてあげられるか、だと考えて過ごしています。

## CAP ワークショップ

先々週から2週間にわたり、年長青バッチグループの子どもたちの人権教育CAPのプログラムが行われました。毎年、保育者研修(ワークショップ)→保護者研修(ワークショップ)を経て年長青バッチの子どもたちの3回のプログラムを三日間に分けて行っています。

CAPのプログラム(幼児向け)では、「権利」(自分を大切にすること)とはどうゆうことか、それが他者におかされた時のよ

うに受けとめるか、そして、その時子どもなりにどのように対応するか、を寸劇や人形劇を見た後、CAPのトレーナー(青バッチグループを2つに分けたグループにそれぞれ2名が担当します)といっしょに実践します。

もしかするとお家でも3つのボディーランゲージと危険回避時の「低音で叫ぶ」対応を実演した子どもがいたことでしょう。

だれもが「あんしん safe」して「じしん strong」をもって「じゆう free」に生きる権利をもっている。美晴でも大切にしている大切な権利を卒園前に子どもたちに体験的に学んでほしいと願っています。

## 「美晴」の揮毫

保育参加週間など来園された時に気づかれた保護者も多くいらっしゃいます。玄関正面に額装された「美晴」と書かれた書を展示させていただきました。

園内には雑然とした玄関ではなく、もう少し展示にふさわしい壁面もあったと思いますが、毎日、登園してくる子どもたち、出勤してくる職員、そして、保護者を含めた来園者の皆様に無意識にでも目にしてほしいと考えました。

この美晴らしい力動感あふれる文字を揮毫(きごう)してくださったのは金澤翔子先生という書家です。興味ある方はインターネット等で検索してみてください。

